



洋菓子

▼「神戸ガレット・デ・ロワコンテスト」を開催

一般社団法人兵庫県洋菓子協会と公益財団法人神戸フアッション協会は、2023年1月に第3回「神戸ガレット・デ・ロワコンテスト」を開催した。コンテストでは伝統的なパイ生地「ガレット・デ・ロワ部門」と卵やバターをたっぷり使うブリオッシュ生地「ドライフルーツをトッピングする南フランスの「クローヌス・デ・ロワ部門」の2部門について、味覚、技術、視覚の3項目を審査した。前者には25作品が、後者には10作品が出品され、いずれも上位3作品が表彰された。会場では、コンテストに併せて「みんなのガレット博覧会」も催され、焼きたてのガレットの実演販売に加え、新企画としてガレットづくり体験ができるコーナーが設けられた。また、兵庫県内の参加店舗を回りスタンプを集めると景品が当たるデジタルスタンプラリーも行われた。



「ガレット・デ・ロワ部門」第1位作品



「クローヌス・デ・ロワ部門」第1位作品

「ガレット・デ・ロワ」とは、フランスでは新年に欠かせないお菓子。職人のスキルと個性がはつきり出るため、フランス最優秀技術者(M・O・F)検定試験の課題にもなっている。

靴下

▼高品質なオリジナルブランドを開発

2021年の兵庫県の靴下産業の規模は、企業数50社、従業員数803人。生産金額は前年比7.7%増加の54億円となったが、コロナ禍以前の水準には戻っていない(兵庫県靴下工業組合)。

県内靴下メーカーの多くは、大手メーカーのOEM生産を手掛けているが、独自のオリジナル商品の製造に注力している企業もある。以下に品質にこだわった靴下を開発している2社を紹介する。

1社目は、一昨年に創業100年を迎えたメーカーである。同社が創業した年に、加古川市出身のパイロットが地元の高御位山から関西初とされるグライダー滑空に成功したことになみ、山とグライダーをデザインした自社ブランド商品を開発した。この靴下は、オリジナルカラーの上質な綿糸を使い、つま先の継ぎ目を一貫して手作業で縫い合わせ、足の形に添った最高の履き心地に仕上げる職人技により差別化を図っている。

もう1社は、スポーツ愛好家向けの高機能ソックスを販売しているメーカーである。今回、箱根駅伝で活躍したプロランナーとSNSで交流したことを機にコラボ企画が実現した。プロランナーからの助言をもとに、靴のふちで足首が擦れないようにかかとから履き口までを約11cmにした厚底シューズ用のスポーツソックスを開発した。

このように履き心地や機能性の高いオリジナルブランドで安価な海外製品に対抗している。

丹波立杭焼

▼丹波焼クリエイティブ・バレー構想

丹波立杭焼は、瀬戸、常滑、信楽、備前、越前とともに日本六古窯のひとつに数えられ、1978年に通商産業大臣より国の伝統的工芸品に指定されたほか、これら六古窯は2017年に文化庁より日本遺産に認定された。その発祥は平安時代の終わりから鎌倉時代の初めと言われ、江戸時代以降は「登窯」が使われている。

この伝統を次の世代に継承するため、丹波立杭陶磁器協同組合は、2022年12月「丹波焼クリエイティブ・バレー構想」を発表した。同構想では、窯元の高齢化や来訪者の減少といった丹波立杭の現状・課題を認識のうえ、オンライン販売、サステナビリティといった社会の流れを捉えて、産地の活性化を図ろうと概ね2030年を目標に達成する将来ビジョンを策定した。

具体的には、「丹波焼を売る」「人が集う」「多世代が活躍する」「文化を深める」の4つの視点から将来ビジョンを設定し、まず取りかかるアクションとして拠点施設の「陶の郷」の機能強化や「最古の登窯」の管理運営・活用などを打ち出した。合わせて、25年大阪・関西万博に向け「ひょうごフィールドパビリオン」として兵庫県が募集しているSDGs体験型地域プログラムに応募し、認定された。また、ビジョン実現の中核的なパートナーとして丹波篠山市および兵庫陶芸美術館と連携し、進捗状況を共有するプロジェクトチームを立ち上げる予定である。